

第12回リバーフロント整備センター研究発表会

研究第一部 主任研究員 田中 久義

平成16年9月10日、科学技術館サイエンスホール（東京都千代田区）にて「第12回リバーフロント整備センター研究発表会」を開催いたしました。

この研究発表会は、当センターの水辺空間に関する調査研究の成果をPRするとともに、最近の話題を紹介し河川技術者の啓発の場とすることを目的としています。

今年度の研究発表会は、コンサーヴェイショニストの柴田敏隆氏の御講話のほか、昨年度の当センターの研究成果を10編発表いたしました。

○研究発表の内容

- ・ 信濃川自然再生に関する一考察
～信濃川の自然環境の変化について～
- ・ 身近な水域における魚類等の生息環境改善について
- ・ 宮中取水ダム魚道の遡上環境改善について
- ・ 筑後川上流におけるアユを指標魚種とした流量増加によるインパクト・レスポンスの検討
- ・ 河川水辺の国勢調査マニュアルの改訂に向けて
－鳥類スポットセンサスの試行調査（中間報告）－
- ・ 砂鉄川におけるショートカット後の
河道変動に関する検討

- ・ 高茎草本の洪水時の挙動
- ・ 水辺とまちの一体的な景観形成に関する研究
- ・ 太田川の水上交通に関する検討
- ・ 河川が有する熱環境改善効果について

上記の研究発表の内容のほか、昨年度の研究成果を取りまとめた「リバーフロント研究所報告」につきましては、当センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧下さい。（<http://www.rfc.or.jp>）



講話（柴田敏隆氏）



研究発表の様子

河川環境展2004

「河川環境展2004」が、平成16年11月23日～26日の間、幕張メッセにて開催されました。この河川環境展は、自然と調和した安全で美しい河川環境の実現と理解を深めることを目的に、最新の動向に関する展示やシンポジウム等を行っているものです。河川環境展実行委員会が主催となり、平成9年から開催され今年で第7回目を迎えております。

展示については、「河川・流域管理技術／基礎観測技術」「水環境保全技術」「河川環境保全技術」「災害復旧（防災）技術」「住民参加と環境教育」の5つのテーマに分かれ、企業・行政・各種団体等61社による出展、企画展示として、体験型の環境教育ミュージアム、様々な疑問質問に答える川のなんでも相談コーナー、大学・研究所等の様々な研究を紹介する川の掲示板のコーナーが設置されました。また、これらの展示に併せ、24日にはシンポジウムが開催

研究第一部 主任研究員 田中 久義

され、『「変革と水の21世紀」－水を中心とした社会システムを考える－』をテーマとして、丹保憲仁氏の調講演及びパネルディスカッションが行われました。4日間で約1万1千人もの来場者があり盛会のうちに閉会いたしました。

当センターでも出展ブースを設け、「自然再生」をテーマとしたパネルや模型の展示、当センターで発行、編集している書籍の販売を行いました。ご来場いただいた方々に、自然再生の川づくりとは何か、また、当センターにおける様々な取組について、少しでも知っていただけたのではないかと思います。

この河川環境展2004の詳細につきましては、河川環境展実行委員会のHP（<http://www.kasen.gr.jp/>）をご覧ください。



開会式（テープカット）



当センターの展示



会場の様子